

ボール運動実践報告

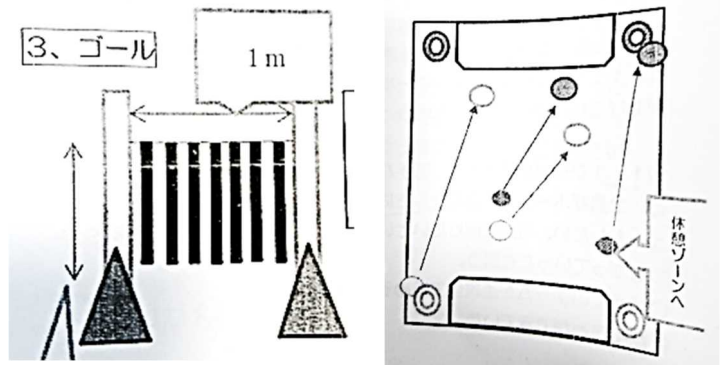
報告：朝輝千明 (豊能ブロック)

第5回おもしろ体育スクールは、豊能ブロック担当で、2本のボール運動の実践についての報告がありました。

「ハンドボール (小4)」 報告：下村亮 (豊能ブロック)

下村さん自身が学生時代、本格的にハンドボールをしており「ずっとハンドボールを実践してみたかった」ということで、長年の思いのつまった実践でした。ブロックでは実践に入る前に、ハンドボールの歴史を学習し、実技をすることで改めてハンドボールの魅力や苦手な子のつまづきを検討しました。支援学級の子でもルールがわかることをはじめに考えたり、苦手な子にも球技の一番の魅力「シュート」の気持ちよさを味わえるように試行錯誤を繰り返してゴールを作ったり、子どもに寄り添うことからスタートしていました。(※ゴール…コーンの上に塩ビ管を指す。それを左右に用意し、塩ビ管の上をひもでつなぐ。ひもから簾のようにスズランテープを垂らす)

実践前は半数がボール運動に抵抗感がありましたが、実践3時間目では「ほかの体育より楽しい。思い通りにならなくても楽しい。」「しんどかったけど、楽しい」「こんなスポーツはやったことがない」と言った感想が出てきました。ルールやゴールを工夫することでどの子も楽しめ、子どもたちの体育・スポーツ観が揺さぶられています。教師側の教材研究の大切さがわかります。

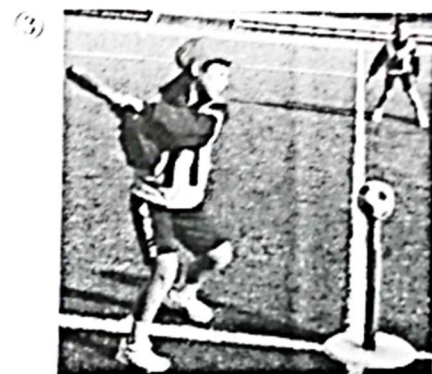


1対1の時は動きもシンプルでどの子も楽しめたが、2対2では攻めが有利になるよう“休憩ゾーン”を作り、2対1になるようにしましたが、これは複雑で判断することも多くなり理解できない子も多く出てきました。授業を重ねていくなかで、少しずつ分かっては来ていったが、感想には動きを理解しても“動きの中でどこまでわかっているのか”が今後の課題だとまとめています。また公式では接触プレーがOKなハンドボール。学校ではどうするか。ひとまずNGでスタートしたが、試合の人数が増え、上達してくると、接触は自然と出てくる。接触はあるものと考え、“安全な接触”と“危険な接触”が子どもたちが理解・判断でき、ルールに取り入れられるとよりハンドボールの実職に迫れそうだ。

「かっとぼし野球」(体育専科、小1・2・4・5年) 報告: 田中宏樹(豊能ブロック)

1・5年生の授業に苦勞する場面が多く(対人トラブル、ルールを守らない、好きな事しかやらない)、教材選びが最重要だと考えた田中さん。プロ野球も身近な子が多く、休み時間にはどの学年も“手打ち野球”が流行っていることを踏まえ、藁にも縋る思いでこのかっとぼし野球を実践することを決めました。

子どもたちのために自前で教具を用意し、どの子も授業に進んで参加できました。まずは楽しさ。また、順番にバッターが回ることで、活動の平等性が確保できること、ルールが明確で、観察もしやすいことが子どもたちの安心して授業に参加できることに繋がっています。その土台



の中で、「ルールづくりの授業」につなげたいという田中さんの思いがありました。

トラブルが多かった子もこのかっとぼし野球には魅力を感じ最低限のルールは守れたことが、それまで授業の成立が難しかった学年全体で意欲的に活動できたことにつながったそうです。そうすると先生の授業マネジメントもしやすく、おとなしい子の学習も保障できたとふりかえています。

* 例会の感想 *

下村さん、田中さんともに子どもたちの実態を丁寧に捉え、そこから教材えらび・教材の工夫をしていることが子どもの意欲につながっています。何といたっても授業の土台は「意欲=楽しい=やりたい」こと。そして、やってみたらどの子にも「わかる」こと。この2つがあると深められるし、子どもどうしがつながるのだとあらためて分かりました。

* web 開催 *

今回は兵庫の遠〜くに引っ越した田中さんは zoom(web)で報告してくれました。Web 開催もありだと、片道何時間もかけずに参加してもらえ、参加の機会が増えます。ただ動画再生は zoom だとなかなかスムーズにいかず、PCをタブレットでとるという方法をとりました。多くの方に協力してもらい感謝!ここがクリアできたら、誰でももっと簡単に参加できてよいなと思います。

